

2022 年度 個人研究実績・成果報告書

2023 年 4 月 6 日

所属	人間社会学部	職名	教授	氏名	猪熊ひろか
研究課題	大学周辺地域の商店街とのかかわりとアクティブ・ラーニング活動				
研究キーワード	関係人口論 アクティブ・ラーニング活動 地域活性化	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	11. 住み続けられるまちづくりを	該当なし	該当なし	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>本研究は、地域と大学生のかかわりによる関係人口創出について、大学教育としてのアクティブ・ラーニング活動への参加回数が商店街内店舗への入りやすさや立ち寄り回数に及ぼす影響を、新型コロナウイルス感染症感染拡大による影響にも触れながら考察するものである。</p> <p>新型コロナウイルス感染症感染拡大により、商店街内店舗とのアクティブ・ラーニング活動への参加回数、商店街内店舗への立ち寄り回数とも減少したものと推測できる。商店街内店舗への立ち寄りについては、商店街内店舗とのアクティブ・ラーニング活動への複数回の参加により「入りにくい」と答える割合が高くなるが、参加回数が増えるほど立ち寄り回数が増えることも示され、感染症感染拡大という状況下にあっても、それ以前（2019年調査）の傾向から大きな変化はなかった。アクティブ・ラーニング活動を継続しながらも店舗に「入りにくい」と答える例として、アクティブ・ラーニング活動により「支援」を介して「する側」と「される側」を分けて認識し、「プライベート」での店舗への立ち寄りを避けようとするといった関係の保ち方も見られた。関係人口の観点からみる若者と地域の関係のあり方において、アクティブ・ラーニング活動は、若者と地域とのかかわりの展開可能性の契機となっているといえるだろう。</p> <p>また、地方空港の活性化に取り組むアクティブ・ラーニング活動へ参加する学生・生徒への質的な調査を並行して実施し、教育としてのアクティブ・ラーニング活動と地域活性化の関連性という観点から、学生・生徒による取り組みの意味について検討を行った。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】</p> <p>特になし。</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <p>猪熊ひろか、2022「商店街内店舗とのかかわりにより創出される関係人口—大学教育としてのアクティブ・ラーニング活動への参加回数から—」『千葉商大紀要』第60巻第1号、千葉商科大学国府台学会、pp.1-13.</p> <p>【学会発表等】</p> <p>特になし。</p>					

3. 主な経費

研究を進めるために必要な関連書籍・OA 関連機器・学会費、調査のために必要な交通費など。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

特になし。

(本文は2ページ以内にまとめること)